

2020年8月14日 ヨラム・エッティンガー大使インタビュー

アミール・ツアルファティ

- 元駐米イスラエルのヨラム・エッティンガー大使へのインタビュー -

[YouTube:ヨラムエッティンガー大使インタビュー](#)

[アミール] ヨラム・エッティンガー大使、今日は、私たちの番組にお越しいただきありがとうございます。

[エッティンガー大使] ありがとう。

[アミール] お付き合いいただきありがとうございます。イスラエル外務省での、ご経歴と記録を視聴者の皆さんに、お話しいただけますか？

[エッティンガー大使] 私は約10年間、イスラエル政府の中東調査部門の責任者を務めてきました。そして、それによって、中東の予測不可能さや不安定さ、ある意味ではもどかしさや、中東の考え方と西洋の考え方の違いを学びました。その後、テキサス州ヒューストンに赴任し、南西部諸州のイスラエル総領事となりました。それは、とてもやりがいのある経験で、私はアメリカの小都市、アメリカ中央部の田舎町、合衆国のユダヤ・キリスト教の基盤とイスラエルを非常に高評価している地域、また、イスラエルの有力者たちにはほとんど知られていない地域を知る事ができました。その後、私はワシントンの大使館に配属され、大使として赴任しました。私はイスラエルと米国議会との関係を担当し、下院や上院を知る事になりました。しかし、おもに個々の有権者の力を知りました。議会の廊下を歩けば、私が「アメリカ人有権者の戦いの叫び」と呼んでいるものが聞こえてきます。私たちは11月に覚えておく必要があります。いかなる有権者も、下院議員や上院議員に対して自分が持っている潜在的な影響を過小評価してはいけません。彼らは有権者を恐れ、基本的に有権者の意志を反映します。

[アミール] エッティンガー大使、2020年は、イスラエル、又はユダヤの文化や宗教と、アメリカ文化の関係が400年を迎えます。私には、それ以来、多くのことが変わったように思えます。そして、その年月の流れの中で、色々なことが変化していったのは何が原因だと思われますか？

[エッティンガー大使] まあ、アメリカの人口が大規模で劇的な人口動態の変化を経験したことは、間違いありません。これはまた、アメリカ全土で、主に大都市を中心にイデオロギーや文化の変化を引き起こしましたが、アメリカの小さな町では、そうでもありません。しかし、初期の移住者や建国の父たちの価値観からは、間違いなく逸脱しています。その価値観は、世界ナンバー1の大国であるアメリカを形成したもので、現在、これらの価値観に対する敬意が最小化されているのは…400年さかのぼれば…実際、2020年11月には、ちょうど400年になります。

[アミール] いつから数え始めますか？アメリカは、400歳ではないですから。

[エッティンガー大使] ええ、でも11月にはメイフラワー号が到着して、102人の乗客が、アメリカのニュープリマスの海岸に到着し…

[アミール] 1620年。

[エッティンガー大使] 1620年。そして、102人の乗客は、実は自分たちを現代の選ばれし者だと思っていました。彼らは、イギリスを、現代のエジプトと見なしました。彼らは大西洋を通過する航海、その7～

8週間の航海を、「海が分けられた事」の現代版と見なしました。そして、こんにちのアメリカは「新イスラエル」「新カナン」「現代の約束の地」と呼ばれていました。私たちは、ここエルサレムで話をしていますが、イスラエルにはエルサレムが1つしかありません。アメリカには、「エルサレム」は18ヶ所あります。実際、32ヶ所の「セーラム」があります。「セーラム」つまりヘブライ語で「シャレム」は、エルサレムの元の名前でした。18ヶ所のザイオン（シオン）がありますが、その中には、「ザイオン国立公園」がありません。アメリカには80ヶ所以上のシロ、20~30ヶ所以上のベテルがあります。そのような町が、他にもたくさんあります。それはまた、初期の移住者たちの世界観の形勢において、モーセの残したものを重要なものとししました。それから、建国の父たち、そして、アメリカ憲法やアメリカの政治制度、アメリカの司法制度の形成においてもです。ですから、アメリカの最高裁判所には、モーセと十戒の像や彫刻が7体ほどあります。下院では、下院議長席の向かい側、正面にはモーセの胸像があります。彼だけではありません。そのような胸像は、議事堂の周りに23体あり、彼らは人類史上の主要な立法者たちです。しかし、モーセは、その中心にいます。モーセは下院議長をじっと見つめています。そして、モーセの胸像だけが正面を向いているものです。他の22人はすべて横顔です。最初にそれに気づいた時、私は国会議事堂の学芸員に、「なぜこの胸像は、他の胸像と違うのですか？」と尋ねました。すると、彼らの反応は、とても面白かったのです。「あなたは、イスラエル出身のユダヤ人ではありませんか？モーセが人類の法の基盤であり、他のものはすべて派生物だということを、ご存じないですか？」したがって、基盤となるものは、議長をじっと見つめ、派生物は横顔となっているのです。彼らは基盤をじっと見つめているのです。ちなみに、アメリカ全土には200個を超える「十戒」の記念碑があります。そのうちの1つは、テキサス州オースティン市の州議会議事堂の敷地にあり、もう一つは、アーカンソー州リトルロック市の州議会議事堂の敷地内にあり、それから、オクラホマシティにも、もう一つ、他にもそのような場所が、たくさんあります。

【アミール】 では明らかに、これらの新しい移民たちが新しく開拓された地域、領土に移住してきたことは、文字通り、ユダヤ・キリスト教の信念を新たなレベルに引き上げたのです。それは、アメリカ文化とユダヤ文化の結合です。アメリカ人は、ユダヤ人になろうとしているわけではありませんが、ユダヤの伝統を大切にしています。駐ワシントン大使時代、イスラエルとアメリカの関係で最も印象に残ったことは何ですか？

【エッティンガー大使】 まず最初にはっきりさせておきますが、私は合衆国への大使ではありませんでした。私は議会関係を担当する大使館の一大使を務めていました。私がワシントンにいた頃は、アメリカのイスラエル船にとっては、かなりの荒波でした。それは、父ブッシュ大統領、ジム・ベイカー国務長官の時代でした。両者は米・イスラエル関係の歴史上、イスラエルの親友ではありませんでした。しかし、当時最も意義深い現実、議会の権力でした。アメリカとイスラエルの政権間の関係は、非常に、非常に不安定で、非常に非友好的でしたが、それでも、両国間の協力は、過去最高の域に拡大しました。そして、それは、おもに議会のイニシアチブ、下院と上院のイニシアチブによるものでした。その時に私が個人的に学んだのは、アメリカの政治制度に特有な特徴です。それは、有権者とその代議員を中心とするものです。そして、下院議員と上院議員の力を最もよく表現するのは、「金力」です。当時の政権は、何度もイスラエルのシャミール首相（当時）を処罰したいと考えていました。しかし、イスラエルを支持したのは連邦議会、つまり下院と上院でした。それは、イスラエルへの友情のためだけでなく、彼らはまた、米国とイスラエル間の協力は互惠関係であり、米国に利益をもたらすものであることを認識していたからです。私は、政権と議会の間で起こったある一つの衝突のことを覚えています。政権(行政)側が、防衛歳出法案の一部修正案に反対した時のことです。それは、米国とイスラエルの防衛協力を拡大する改正案でした。そして査定官は、政権に非常に率直に言いました。「憲法に従えば、私があなたを監督し、あなたが私を監督するのではない。」議会が勝利し、政権は譲歩せねばなりませんでした。

【アミール】 それは興味深いですね。イスラエルとアメリカの関係は双方向だと仰いましたね。私たちの視聴者のほとんどは、私たちが「福音派クリスチャン」と呼んでいる人たちで、彼らの多くは米国人です。その他、世界中にも大勢の視聴者がいます。彼らにとって、イスラエルを支持することの利益は、おもに霊的なものであり、聖書的なものです。しかし、あなたが書かれた記事を読むと…このインタビューの最後

に、あなたのブログと、数週間ごとに投稿されている記事をご紹介しますが、あなたの記事で、私は非常に興味深いことを読みました。それは、イスラエルを支え、助け、援助することは、アメリカにとって霊的な祝福にとどまらないという事です。私の知る限りでは、毎年約30億ドル。

[エッティンガー大使] 38億。

[アミール] 38億。年間40億ドル近いイスラエル支援。アメリカは、その支援から、どのように恩恵を受けているのでしょうか？

[エッティンガー大使] 元空軍情報部長官のジョージ・キーガン将軍は、イスラエルとの協力を称賛し、イスラエルから得られるほどの範囲の価値ある機密情報を、アメリカは調達できないと主張しました。ロシア製軍事システム的能力、テロ対策機密情報、アメリカ人の命を救う事に関しては、米国は、CIAが5つ以上なければ、そのような諜報を入手できない、と。私の知る限りCIAの予算は、年間約150億ドル程度です。それでは、ジョージ・キーガン将軍が誇張していたと仮定しましょう。イスラエルはCIA5つ分の価値は提供しておらず、おそらくCIA2つ分だけ。もしかしたら、1つ分の価値しか提供していないとしましょう。それであっても、イスラエルへの「間違った対外援助」と呼ばれるもののほぼ5倍の価値があります。明らかに、イスラエルにいる私たちは、アメリカの軍事システムの観点で38億ドルに感謝しています。しかし、非常に明確にしておきましょう。これは、イスラエルへの、アメリカの投資であり、イスラエルへの補助金ではありません。そして問題は、そのイスラエルへの年間投資は、どの程度の付加価値を生み出しているのでしょうか？そこで繰り返しますが、ジョージ・キーガンによると、これは、年率450~500%程度の運用益だそうです。このような、年間利益率をもたらすアメリカの海外投資を、他に私は知らないですよ。でも、もう一步踏み込んでみましょう。米国は現在、アフガニスタンとイラクでF-15とF-16戦闘機を使用しています。F-15を初めて戦闘任務で使用したのは、イスラエルでした。やはり、イスラエルは、米国からそれらのF-15戦闘機を受け取ることができたことを、国に感謝しています。しかし、イスラエルはずっと、アメリカの防衛産業とアメリカ軍のための、費用効率の高い戦闘テスト実験室となってきました。こんにちアメリカは、非常に高度に改良されたF-15を飛ばしていますが、それは、おもにイスラエルの実験室のおかげです。イスラエルは10年間、戦闘条件下でF-15とF-16を毎日使用しました。アメリカは、それらの10年間、F-15とF-16を使用していませんでした。しかし、11年目に、アメリカが初めて使用した時にはそのF-15は、イスラエルの研究室のおかげで改造により、性能アップされていました。具体的な例を挙げると、F-15を製造しているミズーリ工場の現地と、F-16とF-35を製造しているテキサス州フォートワース工場に、イスラエルのチームがいます。イスラエル空軍は毎日、イスラエルのチームを通じて、運用面、メンテナンス面、修理面で学んだ教訓をメーカーと共有しています。それらの教訓は、アップグレードとして次世代の戦闘機に統合されています。テキサス州フォートワースの工場の管理者の一人が私に言ったのは、これらのアップグレードは、メーカーにとって、彼の言葉で「云十億ドルの大儲け」ほどの価値があるということです。これは、数十億ドルの大儲けであるだけでなく、メーカーは、10~15年の研究開発期間を節約します。それは、グローバルな競争において、防衛産業の競争力を高めます。したがって、アメリカの輸出を増加させ、アメリカの防衛産業の雇用基盤を拡大することになるのです。現在、イスラエルは、100を優に超えるアメリカの軍事システムを使用しています。私たちは、戦闘条件下で使用する一つ一つのものを、自分たちが学んだ事をメーカー側と共有することによって、改善します。その理由は単純なもので、イスラエルは、次の機会にアメリカから、より良い製品を入手したいからです。そして、それは互惠関係です。イスラエルも利益を得て、アメリカも利益を得るのです。NATO最高司令官であり、後に米国務長官を務めた故アレクサンダー・ヘイグ将軍は、米国とイスラエルの協力強化を、より熱心に支持していた一人でした。そして、彼は「どうしてそんなにイスラエルに熱中するのか？」と尋ねられたとき、彼の返答は、「イスラエルは、米兵が一人も搭乗する必要のない最大の米航空母艦だからだ。それは、米国の利益にとって最も重要な地域、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、地中海、紅海、インド洋の間に配備されているのだ。もし、中東にイスラエルがいなかったら、アメリカはさらに数隻の本物の空母を、この地域に配備し、さらに数師団の地上部隊を、この地域に配備しなければならないだろう。それはアメリカの納税者に、年間150億ドルから200億ドルを負担させることになるだろう。それがすべて、中東西部にある1つのユダヤ人国家によって、回

避されているのだ。」他にも例はあります。その一例として、私はアラバマ州バーミングハムに行きました。最初に会ったのはバーミングハム地区にある大学の学長で、彼は、たまたまアメリカ海兵隊の元司令官でした。私たちはイランやイラク、そして米国とイスラエルの関係についても話しました。そして私は彼に、イスラエル国防軍と直接、接触した事があるかどうかを聞いてみました。すると彼は「当然ですよ」と言いました。彼は、第一次湾岸戦争で戦いました。そして、彼が言うには、サダムの作戦下で使われたソ連製戦車と彼が戦った方法は、シナイ半島で、エジプト人の作戦下で使われたソ連製戦車に対する、イスラエルの戦い方を研究する事でした。彼はまた、米軍のために戦術を考案していた男たちの一人だったとも言いました。それは大体において、カンザス州のフォート・レブンワースで行われています。いわば米軍諜報の“メッカ”です。そして、彼は私に分かり切った質問をしました。「ヨラムさん、イスラエルの戦いの経験を基にするのでないのなら、私たちは、カンザス州フォート・レブンワースで、どうやって戦術を立てているとお考えですか？」

【アミール】 わあ、なんて興味深いトピックでしょう！F-35についても、イスラエルをベースにした改良の波があるようですね。

【エッティンガー大使】 F-35は、はるかに高価で、はるかに洗練されているので、アメリカにとってははるかに有益です。またしてもイスラエルは、戦闘条件下でF-35を運用した最初の国です。お許しをもらえれば、別の例を挙げてみましょう。私は、ダラスで講演をしました。ちなみにそれは、ダラスでのクリスチャン・カンファレンスでした。その終わりに人々が感想を聞かせてくれました。そして、その中の一人が、アメリカ空軍の退役戦闘機パイロットであると、自己紹介してくれました。そして彼は、「あなたのリストにもう一つ実例を加えたいのです」と言いました。そして、彼は言いました。退役した戦闘機パイロットとして、彼が知っている事は、アメリカ人戦闘機パイロットにとって最も生産的な時間は、イスラエル空軍との合同演習だということです。私の返答は、次の通りでした。「そう仰っていただくのはとても嬉しいですが、それは私にはなかなか受け入れられません。なぜなら、結局のところ、イスラエルはアメリカの兵器を採用しているのですから。イスラエルのパイロットのIQは、アメリカのパイロットのIQよりも高いワケではありません。では、彼らがイスラエルのパイロットと合同で演習をする時、なぜ、大部分はアメリカのパイロットが恩恵を受けるのでしょうか？」彼の反応は、「イスラエルのパイロットは、訓練中でも作戦中でも、常に、やるか・やられるかの状態で飛行しているからです。イスラエルは狭い帯状の国土なので、いったん離陸したら、すでに敵のレーダーの範囲内、敵ミサイルの射程内に入っています。アメリカのパイロットは、やるか・やられるかの心理状態を体験することは、滅多にありません。」その、アメリカ人パイロットが私に言ったのは、「やるか・やられるかの精神状態で飛行する時には、はるかに創造的で、はるかに大胆なパフォーマンスを発揮し、アメリカ人の認識を超える範囲までアメリカの戦闘機の能力を伸ばすのです。」そして彼は私に「我々アメリカ人パイロットにとってF-35やF-16やF-15が、どれほど優れているかを理解する唯一の方法は、イスラエル人が、我々の戦闘機を操縦するのを見ることだ」と言いました。だからこそ、アメリカ空軍がイスラエル空軍との合同演習を行うことは、とても有益なことなのです。ちなみにCOVID-19の最盛期、3月末のことでしたが、米国は外国軍との共同演習をほぼすべて中止しました。中止されなかった、ごくごく数少ない演習の一つは、アメリカとイスラエルのF-35戦闘機で行われたF-35の合同演習でした。そしてその目的はやはり、アメリカ人がF-35がいかに優れているかを認識する事でした。

【アミール】 エッティンガー大使、今から政治的な質問をします。しかし、それは聖書の預言と、世界中の多くの福音派クリスチャンの興味をそそるものに関わるものでもあります。預言書エゼキエルの書には、多くのイスラエル人や世界中のユダヤ人が、よく知っているものについての記述があります。「マゴグの地のゴグ」という言葉です。もちろん、そのすべてを話すつもりはありませんが。しかし文字通りに、その聖書の記述は、将来に起こる、繁栄しているイスラエルへの侵攻について語っています。そして、その章で与えられている聖書上の名前は、ヨセフス・フラヴィウスなどを通して確認できるもので、現代のロシア、現代のトルコ、現代のイランであり、さらにはリビアやスーダンもです。そして、聖書の記述は、イスラエルは神のご介入によって救われるが、他のどの国からも助けが来ることはない、と伝えています。しかし、イスラエルへの侵攻に対する興味深い抗議は、西側からだけでなく、シェバとデダンからも来ます。それは、

実際には、現在のサウジアラビアです。ここで、あなたの専門分野に入っていきます。つまり、イスラエルと「穏健派」スンニ派アラブ世界との間の変化し続ける関係と、また、いつか、民主党のホワイトハウスが、もはやイスラエルを助けることにメリットを見出さなくなる日が来るという可能性です。あなたが今のアメリカで何が起きているのか、また、中東で何が起きているのかをご覧になって、そういった事が見えますか？

【エッティンガー大使】 まあ、それはアメリカ大統領が、イスラエルとの同盟から派生するアメリカの利益を評価しないかも知れない、というだけの問題ではありません。それは、ホワイトハウスの住人が中東の複雑な事情を理解するかという問題です。例えば、イランのアッヤトラーからの、アメリカや自由な世界に対する明確で今そこにある致命的な危険性を認識すること。可能性としては、トルコのエルドアン、彼は、中央アジアから中東を経由してヨーロッパ、アフリカ、そしてその先までにまたがるイスラムの偉大なオスマン帝国を再建したいと考え、イランのアッヤトラーは、生活水準の向上を動機にしていないのが現実です。彼らの目的は、ペルシャ湾やアラビア半島、あるいは中東の支配権を獲得することだけではありません。イランのアッヤトラーたちは、自分たちは神から任命された全世界の指導者であり、世界中にイスラム教を広めるための主要な使者であると考えています。こんにち、すでにイランの存在は、中央アジア、アフリカ大陸、南米、中米にあり、米国ではイランの潜伏工作員が増えています。イスラエルは近年、イランとの対峙の最前線に立ってきました。イスラエルはゴラン高原で、シリアにおけるアッヤトラーの動きを抑制しています。イスラエルはゴラン高原で、トルコのエルドアンの動きを抑制しています。彼もまたシリアとイラクに軍隊を置いています。そして間違いなく、イスラエルはゴラン高原で、シリアにいるロシアの動きを抑制しています。さらに、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、バーレーン、クウェート、オマーン、ヨルダン、エジプトなどの親米的なアラブ政権は、そのすべてが、最近イスラエルとの関係を拡大していますが、それは彼らが平和を愛するからではなく、彼らが「イスラムの住居」と呼んでいる場所でのいわゆる異教徒の主権を受け入れているからでもありません。それには単純な理由があります。彼らは皆、ユダヤ国家が、彼らが信頼でき、頼ることのできる、中東で最も効果的な生命保険代理店であると考えているからです。彼らは、10年間、オバマ大統領と苦い経験をしました。その間、彼らそれぞれにとって最大の脅威であるイランのアッヤトラーが、ワシントンから追い風を受けていました。現在はトランプ大統領で、彼らの経験は改善されていますが、彼らは1月に何が起るかを恐れています。彼らが確信していることは一つ。イスラエルの左寄りの連合であれ、右寄りの連合であれ、彼らはユダヤ国家の能力を信頼できるという事です。そして、彼らが信頼するのは、イスラエルが例えばヨルダンのハシミテ政権に対する最高の防衛線だからです。ヨルダンのハシミテ政権は、ヨルダン川の西側にパレスチナ国家があれば、川の東側のハシミテ政権の運命を定めることをよく知っています。そして、ヨルダンのハシミテ政権に代わる選択肢は、何であれ、その地域の安定性や、アメリカや西側の民主制の利益を考えれば、より悪くなるか、最悪になるか、極悪になるかのいずれかでしょう。ハシミテ政権が倒されれば、ヨルダンから南に向かってサウジアラビアやアラビア半島の他の地域にも、アメリカの政権にとって、連鎖反応があるでしょう。したがって、イスラエルは、アッヤトラーが全世界を支配するという誇大妄想的な構想を実行するのを邪魔しています。私たちはまた、トルコのエルドアンが、彼自身の似たような誇大妄想的なビジョンに従うのも邪魔しています。したがって、繰り返しますが、このような重要な地域で、中東のみならず世界全体にとって、米国の最も効果的な足掛かりとなっているのは、イスラエルなのです。

【アミール】 20年前のアメリカの民主党は、今日の民主党ではないことに同意されますか？そして、イスラエルに対する彼らの当時の見解と、イスラエルに対する彼らの今日の見解は全く異なるものだ、と？

【エッティンガー大使】 まあ、それはイスラエルに対する見解だけではありません。アメリカには「青犬民主党員」という言葉があります。それは「黄犬民主党員」とは対照的なものです。「黄犬民主党員」は、共和党に投票するくらいなら、むしろ「黄色い犬」に投票したい。「青犬民主党員」は、穏健な民主党員です。昔は穏健派民主党の「青犬」の支持がないと全国区で当選できなかったのです。そういう時代は過ぎ去ったのかもしれませんが。それを実感するには11月を待たねばなりません。民主党の急進派が大幅に拡大していることは間違いありません。そして、それはアメリカを世界的に卓越させた根本的な価値観に戻り

ます。民主党に投票する現在の人口は、初期の移住者や建国の父たちの価値感とはあまり関係がありません。愛国心だとか、「我ら神を信ず」といった価値観、信仰、また十戒、聖書全体、旧約聖書、新約聖書を基準にした価値観。そのような価値観から切り離された人が徐々に増えています。これらの価値観からの離脱は、初期の移住者や建国の父たちの遺した^{のこ}ものから、人を引き離してしまいます。非常に賢明な建国の父たちは、国家と教会の間には分離があるべきだが、宗教と社会の間には分離があってはならないことを明確にしていました。彼らは、社会と宗教を分離することは、社会に非常に肯定的な基本的価値観を与えないことだと理解していました。それは個人的な関係、共同体的な関係、国家的な関係を決定するものであり、社会をまとめあげるタイプの原則です。こんにち、悲しいことに、そういった価値観の低下が見られます。ちなみに、あなたは、おそらく私よりもよく知っている筈ですが、アメリカ人の教会への出席率は、日曜日の礼拝の出席率は30%程度で、ヨーロッパよりはまだ劇的に高いのですが、減少しています。教会に行くアメリカ人の若者が少なくなってきました。私たちは、こんにち、アメリカの大都市の路上で、主要な記念碑を傷つけたり、アメリカの歴史を汚したり、アメリカの歴史を軽視したりしているのを目にします。過去を無視すると、基本的に未来を諦めることになります。なぜなら、未来に立ち向かい、未来に発展するための唯一の責任ある方法は、あなたの過去を研究することに頼るものだからです。そして、アメリカの過去と核心的な要素は、ユダヤ・キリスト教的価値観でした。

[アミール] アーメン。少しイスラエルと、パレスチナの話に移りましょう。イスラエルがユダヤ、サマリア、ヨルダン渓谷に主権を行使するメリットについて、多くのことを書いておられますね。トランプの「世紀の取引」の一部についての話です。ほとんどのイスラエル人は、多かれ少なかれその取引に満足しているようですが、パレスチナ人は断固としてそれに反対しているように私には思えます。イスラエルが、ヨルダン渓谷と西岸の入植地で主権を行使することで、アメリカにとって何かメリットがあると思われませんか？

[エッティンガー大使] 1994年10月のヨルダン・イスラエル和平条約の調印に戻りましょう。イスラエル軍のトップ司令官から聞いた話では、式典でヨルダンの同僚に声をかけられ、「ユダヤ、サマリアの山々、ヨルダン渓谷にパレスチナ国家が出来ないようにしてくれ。それはヨルダン川の東側のヨルダンで、私たちが破滅させるからだ」とはっきりと言われたそうです。すなわち、ユダヤ・サマリアの山の尾根とヨルダン渓谷のイスラエル支配は、ヨルダンのハシミテ政権に対する防衛の最前線なのです。明らかに、それはイスラエルの生存にとっても重要です。なぜなら、もしイスラエルに、ユダヤ・サマリア山地の支配を認めなければ、イスラエルをユダヤ・サマリアの山々と地中海との間にある狭い細切れに戻すことになるからです。それは荒れ狂い、予測不能で、不寛容で、暴力的で、弱く、もどかしい中東にある8~15マイルの破片です。それらは自殺行為的な境界線です。しかし、ユダヤ・サマリアの山の尾根を管理することは、アメリカに大きな利益をもたらします。ユダヤ・サマリアの山々の尾根とゴラン高原は、中東における国家安全保障上、地形的、地理的に最も重要な2つの要素です。1970年に、親ソビエトのシリアが親米のヨルダンに侵攻してきた時、アメリカはカンボジア、ベトナム、ラオスにいて、同盟国のヨルダンに手を伸べて助けることが出来ませんでした。当時のアメリカ大統領ニクソンは、イスラエルのゴルダ・メイア首相に電話をかけ、現状を説明しました。イスラエルは48時間以内にイスラエル、シリア、ヨルダンの三国国境であるゴラン高原に軍を配備しました。24時間以内に、シリア軍はイスラエル国防軍と、一発の銃弾も交わすことなく撤退しました。ユダヤ・サマリアの山地とゴラン高原でのイスラエルの戦争抑止の姿勢が、その役目を果たしたのです。イスラエルを、この地形的、地理的に非常に重要な二つの地域、ゴラン高原とユダヤ・サマリアの山地から取り除くと、すべての親米アラブ政権をアッヤトラーの怒りにさらし、ISISの怒りに、ムスリム同胞団の怒りに晒すことになるのです。そして、中東で反米展開の雪崩を起こす方向に向かうこととなります。それらの山々の頂上にいるイスラエルはアメリカの利益にかなない、アラブ世界のアメリカ同盟国の利益にかなない、言うまでもなく、イスラエルの利益にかなっています。しかし、おそらく最も重要なのは、ユダヤ・サマリアの山の尾根は、実はユダヤ人の歴史の発祥地であり、ユダヤ教の発祥地であり、ユダヤ文化の発祥地であり、ユダヤ史の発祥地なのです。そして、どんな民族でも、その歴史の発祥地を見捨てたり、またはそこから撤退しながら、未来に生き残れることが どうして期待できるのでしょうか。

[アミール] エッティンガー大使、私にとってイスラエル人として最ももどかしいことの一つは…私は、自

分を保守的なイスラエル人だと思っています。「右」「左」という言葉を使うのは好きではありません。保守的な人たちがいて…進歩派を名乗る人もいると思います。ちなみに、彼らが「進歩派」と自称し始めると、彼らは、まるで私たちが「置き去りにされている」とか、私たちが古臭い考え方をしていると主張しているようです。でも、ちょっと聞いてください。私は「古臭い」と言われても、悪い気はしません。なぜなら、残念ながら、私は提案されている新しいものの多くは、悲惨なものだと断言できるからです。では、私が幼い頃から感じていたこと、見てきたこと、目撃してきたことを紐解いてみましょう。私はハリー・トルーマン大統領が書いた本を読んだことがあります。それは彼の回顧録です。彼がイスラエル国家の誕生について書いた章は、私にとってとても興味深いものでした。なぜなら、私はこんにち見られるのとほとんど同じ手口を見たからです。脅し、状況を最悪に描写する事。それは、イスラエルの存在と、ここでのイスラエルの主権を支持することに関し、アメリカが大胆な行動をとるのを止めるためです。私が言っているのは、ユダヤ・サマリアやゴラン高原の話ではなく、国家としてのイスラエルのことです。あなたも私も知っていますが、もしトルーマン大統領の決意がなくて、もしも当時の国務長官を務めていたジョージ・マーシャル次第だったとしたら、アメリカがユダヤ国家に「賛成」投票することはなかったでしょう。彼らはそれを望んでいませんでした。70年以上たって、私たちは皆、トランプ大統領のエルサレムへの大使館の移転を目撃しました。さて、この脅迫はリベラルな国務省から来ているだけでなく、それはまた、残念ながらイスラエルの組織からも来ています。イスラエルの外務職員や、アメリカのどこかで勉強して洗脳されたと思われるイスラエルの将軍たちにも同じことが起こっています。あなたは、もちろん、イスラエル軍にも従軍されましたが、イスラエルの外交官としても務められましたね。この地域について、私たちが知っている事すべてと、私たちが対処している隣国の人たちについて知っている事すべてを、「土地が私たちに平和を与えてくれる。隣人を怒らせないようにしよう」というこの考え方と、どうやって和解させますか？「隣人を怒らせないように、自分たちのことは気にしないようにしよう」どう思いますか？

【エッティンガー大使】 まあ、これがいわゆる西側の社会通念の現実であり、西側というのはイスラエルも含めてのことです。そして、あなたが指摘されたように、記録は非常に非常に明確です。1948年、国務省、国防総省、CIA、ニューヨーク・タイムズ紙、ワシントン・ポスト紙は、皆、ユダヤ人国家の設立に反対し、ユダヤ人国家は親ソビエト、反米になると主張しました。それはなぜでしょうか？ユダヤ人国家の建国の父たちは東ヨーロッパから来たからです。東欧から来たことで、彼らが共産主義体制の悪を非常によく認識していたとは、彼らには思いもよりませんでした。そのため、すぐに親米派になったのです。彼らはまた、ユダヤ国家は、その新たに設立した国家に対する、組織的なアラブの侵略を耐えることはできないと主張していました。そして、私たちが周りのアラブ軍を潰した時に、彼らは圧倒されました。彼らはまた、ゼロ・サム・ゲームのはずだとも主張していました。親イスラエルか親アラブかのどちらかだ。そして、彼らは、アラブ人にはイスラエルの問題よりもはるかに重要な問題がたくさんあるとは思いませんでした。そして実際に、1948年から72年間を早送りで進むと、当時の組織が、いかに間違っていたかが分かります。しかし、彼らが間違っていたのはその時だけではありませんでした。'78~'79年、ペルシャ湾岸におけるアメリカの警察官を裏切ったのは、米大統領ジミー・カーターでした。アメリカの盟友イランの国王を。それはジミー・カーターや国務省、基本的にはワシントンの国防省や外交政策機関の一般的な見解であり、当時パリに亡命していたアヤトollah・ホメイニが民主主義だけを望み、彼が平和を望んでいたと思込んでいました。そして、イランの人々に平和と民主主義を与えなかったのは、その独裁的な国王だという事になっていました。そして実際、強いイランを第一の同盟国から第一の敵、テロの中心地に変えたのは、アメリカの大統領でした。イラン・イラク戦争に早送りしましょう。イラン・イラク戦争は「敵の敵は味方」という誤解を植え付けました。つまり、サダム・フセインはイランを敵としてみなしている。したがって、サダム・フセインはアメリカの友人であるはずだ、と。そして文字通り、1990年8月のクウェート侵攻の日まで、米国はフセインを、共同諜報交換協定を結ぶにふさわしいと見ていました。米国から軍民両用の高度なシステムを受け取り、数十億ドル相当の融資保証を受けるにふさわしいとして。そして、この通念を打ち砕いたのはクウェート侵攻でした。2010年12月にアラブの津波が起こったとき、それはすぐに、「アラブの春」という非常にエレガントな名が与えられました。そう名付けたのは、ワシントンの外交政策機関、オバマ大統領、国務長官、国家安全保障問題顧問でした。そして、その機関が思いもよらなかった事は、中東のアラブの首都の路上での暴動や流血は、オバマやヒラリー・クリントンやジョン・ケリーが定義したよう

な、フェイスブック革命とか若者革命、民主主義の行進と呼ばれるものではなかったということです。そして、イスラエルの件も出てきました。イスラエルはパレスチナ人、つまりPLO（パレスチナ解放機構）と、オスロ合意に署名しています。オスロ合意は、現実的に中東を評価するなら、どう見ても、とても大きな自滅的な合意でした。しかし1993年に、クリントン大統領が、イスラエル指導者たちと共に、PLOのヤセル・アラファトを仲裁役として祝福し、彼がノーベル平和賞を受賞するようにしましたが、実際のところは、オスロ合意は前代未聞の憎悪教育の波をもたらし、また、私たちの地域に前例のないパレスチナ人のテロリズムの波をもたらしたのです。そのギャップ、すなわち、一方における西洋機関の誤認と、他方における中東の現実との間にあるギャップの原因は、中東の文化と西洋の文化の間にある大きな違いにあります。欧米では、アラブの言う事に重きを置く傾向があります。欧米の指導者から頻りに耳にするのは、「我々はアラブ諸国の首都を訪問した。どこに行っても聞こえてくるのは、パレスチナ問題、パレスチナ問題、パレスチナ問題。」という話です。でも、それは言われている事なんです。アラブの歩み方も調べてみてください。言っている事とは180度違います。そして明らかに、アラブの歩みを分析することに時間と思考と評価を費やすよりも、彼らの話に頼る方がはるかに簡単です。アラブの歩み方に関して言うと、どのアラブの国もパレスチナ国家を望んでいません。パレスチナ人のために一滴でも血を流したアラブの国はありません。アラブ諸国は、パレスチナの大義のために少額の金銭的貢献をしてきましたが、それには理由があります。なぜなら、アラブ人はパレスチナ人をアラブ間の裏切りと、アラブ間のテロと破壊の模範として認識しているからです。1955年、パレスチナ人の指導者であるアラファトとマハムード・アッバースは、エジプトでの破壊とテロのために、エジプトから逃げ出さざるを得ませんでした。彼らはエジプトのムスリム同胞団に関与していました。シリアはその扉を開きましたが、1966年までには、パレスチナ人は自分たちを制御することができず、シリア内部でテロの波を巻き起こしました。彼らは、シリアからヨルダンへ逃げるしかありませんでした。ヨルダンは2年間、彼らがイスラエルに対するテロ活動を許すのを許しました。しかし1970年には、彼らは十分に力をつけたと感じ、ヨルダンのハシミテ政権の打倒を試み、それがヨルダンでの内戦を引き起こし、彼らはレバノンに逃げ込まざるを得なくなりました。1970年から1975年の5年間、彼らはレバノン南部を略奪しました。彼らはバイルートの中央政権に挑戦できるほどの力があると思い、それがレバノン国内での一連の内戦を起こしたのです。そして1990年、サダム・フセインのクウェート侵攻がありました。当時のクウェートは、パレスチナ人に対して最も寛大なアラブの国でした。彼らは、40万人のパレスチナ人を吸収しました。アラブ諸国におけるパレスチナ人の人口としては、ヨルダンに次いで第2位です。彼らは、パレスチナ人が行政、金融、企業のトップポジションに昇格することを許しました。彼らはパレスチナ人の収入に5%の物品税を課し、アラファトとマハムード・アッバースの世界中にある隠し口座に移しました。しかし、パレスチナ人に裏切られたのは、その最も寛大なアラブの受け入れ手でした。パレスチナ人は、サダムのクウェート侵攻に協力し、それが理由で、クウェートのシェイク・アル・サバは、アメリカの血とアメリカの財政のお陰で、再び力をつけた時に、彼が最初にした事は、ほとんど全てのパレスチナ人をクウェートから追放することでした。そして、この普遍主義的な考え方に固執しているアメリカ人やイスラエル人に私がいつも投げかけている質問があります。なぜあなたは、パレスチナ人に対するアラブ人の行動を研究しないのですか？なぜ、アラブの歩みを吟味しないで、アラブの言う事に依存するのですか？中東には、こういう言い回しがあります。「言葉には関税がかからない」使えばいいじゃないか。その上、大体においてイスラム教の原理に沿って運営される中東では、誤解させる、異化タイプの言語を使用しろと言う戒めさえあります。

【アミール】 タキーヤ。

【エッティンガー大使】 タキーヤ。いわゆる「異教徒」を惑わせ、克服するためです。その手の巧言は、イスラム教徒として義務づけるものではありません。それは異教徒との戦いにおける戦術です。そして、私たちは自問することができます。私たちは「平和」という言葉を何度アラブ人の口から聞いたことがあるだろうか？そして、彼らは何度それを違反しただろうか？ほとんどがイスラエルに対してではなく、彼ら内部でのアラブ間の戦いで。私たちが、アラブ人の彼ら自身への行動とパレスチナ人に対する行動を研究するならば、私たちの大きな利益になると思います。私たちの火の柱としてアラブの巧言に頼る代わりに。

[アミール] これは私がここでしたインタビューの中で、最も興味をそそられる、おもしろいものの一つです。あなたは、どこかからの参考書からではなく、個人的な経験から得た知恵をたくさん与えてくださいました。このインタビューの最後に、イスラエルとアメリカの関係の将来についてのご意見をお聞きしたいと思います。11月のアメリカの選挙が近づいていて、それから、こんにち、アメリカの幾つかの主要都市で起きている事、ブラック・ライブズ・マターの計略、アンティファの計略に伴う反ユダヤ主義の高まりを見てみると、一方では、それらの組織がパレスチナの筋書きを受け入れており、そしてもちろん、他方ではイルハン・オマールやラシーダ・タリーブのように、反イスラエル政策を隠しもしない代議員たちもいます。私が今お話したことを踏まえて、将来のイスラエルとアメリカの関係についてどのようにお考えですか？

[エッティンガー大使] 今後の二国間関係のあり方は、いかに失敗を避け、いかに自らを向上させるかを過去の関係から学び、そこから派生したものであらねばなりません。過去の実績を見ると、明らかな結論があります。アメリカ社会とイスラエル社会の間には、独特の相乗効果があります。そして、その独特の相乗効果は、やはり、ユダヤ・キリスト教の価値観に基づく両社会の原理から派生したものです。私の考えでは、アメリカでもイスラエルでもこれらの価値観を復活させ、強化する必要があると思っています。ここには、信仰に基づいた二つの社会があります。信仰には一定の違いがありますが、信仰の中心性と神を信じることの中心性の実現においては、違いはありません。実際、アメリカの連邦制の実態は、旧約聖書から派生したものです。それは、王は唯一神のみであり、いかなる人間も他の人間の王になるべきではない事を教えています。初期の移住者、建国の父たちは、士師ギデオンと預言者サムエルから、それを採用しました。アメリカ社会やイスラエル社会を特徴づけてきた「不利な条件への抵抗」がそのまま残るようにしなければなりません。繰り返しますが、不利な条件への抵抗は、私たちが古代ユダヤの歴史から学ぶものです。荒野での40年間は、やはり信仰、つまり、神への信心に導かれた不利な条件への一つの大きな抵抗でした。同時に、非常に明白な利益ということになると、私たちはまた、主にはアメリカ人ですが、イスラエル人にも注意を払う必要があります。こんにち、私たちはコロナウイルスや、将来のパンデミックに対する様々な薬物療法、様々なワクチン接種システムを見つけるために、医学的に協力しています。また、アメリカとイスラエルのバイオテクノロジー企業は、長年にわたって協力しており、双方とも多くの利益を受けてきました。アメリカのハイテク大企業250社ほどがイスラエルで研究開発センターを運営し、知力を活用しているのには理由があります。そして、その理由はアメリカの頭脳とイスラエルの頭脳の相乗効果に関係しています。あえて言わせてもらおうと、アメリカとイギリスであれ、アメリカとフランスであれ、アメリカとドイツであれ、いかなる相乗効果よりも、アメリカとイスラエルの相乗効果は、両社会の基盤のおかげで、商業的にも軍事的にも、よりよく機能するのです。私はイスラエルには、アメリカの小さな町にもっと注目してほしいと思います。アメリカの小さな町は、アメリカの内部で政治的に独特の力を持っています。そして、アメリカの小さな町には、親イスラエル、親ユダヤ教、キリスト教の感情が溢れています。しかし悲しいかな、イスラエル有力者たちの大半は、ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴに精通し、もしかするとヒューストン、ダラス、アトランタ、マイアミなども知っていますが、アメリカの小さな町は知りません。テキサス州のナコドチェスとか、アラバマ州のボアズやドーサンは知らないのです。しかし、私の考えでは、そこがアメリカの中核的な力が存在する所であり、まちがいなく、アメリカとイスラエルの特別な結びつきの背後にある中核となるエンジンがある所です。

[アミール] エッティンガー大使、視聴者の方々があなたの書かれる事や仰る事を続けて知りたい場合、ソーシャルメディアやフォーラムでフォローする方法を教えてくださいませんか？

[エッティンガー大使] 私は毎週、英語とヘブライ語で記事を公開しています。私のウェブサイト www.theettingerreport.com に掲載されています。FacebookやTwitter、LinkedInにも記事を投稿しています。米イスラエル親善400周年を記念して、中東の様々な側面をテーマにしたショートビデオを数多く制作しました。そして、私自身の電子メール (yoramtex@gmail.com) に、直接フィードバックを送っていただければ幸いです。

[アミール] インタビューにお答えくださり、ありがとうございました。また次回お会いして、時事問題に

ついて話し合い、あなたの素晴らしいお知恵から学べるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

[エッティンガー大使] こちらこそ、ありがとうございました。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.09.05 (Sat)